

本県の 2012 年度（平成 24 年度）の温室効果ガス排出量について

1 温室効果ガスの総排出量

- ・ 2012 年度の温室効果ガス排出量は、77,410 千トン（二酸化炭素換算）。
- ・ 京都議定書の基準年度（原則 1990 年度）と比べ、0.5%の増加。
- ・ 前年度と比べると 3.9%の減少。

表 1 県内の温室効果ガス総排出量の推移

(単位:千トン-CO₂)

年度 ガスの種類	1990 ^{※3}	2007	2008	2009	2010	2011	2012	基準 年度比	2011 年度比
二酸化炭素 ^{※1}	73,223	83,137	75,851	72,528	72,593	77,809	73,971	+1.0%	▲4.9%
メタン	367	309	302	285	282	292	276	▲24.8%	▲5.6%
一酸化二窒素	758	1,292	1,162	1,146	1,184	1,166	1,160	+52.9%	▲0.5%
HFCs ^{※2}	865	775	872	973	1,067	1,184	1,806	+108.8%	+52.5%
PFCs ^{※2}	165	88	50	38	43	58	76	▲53.9%	+30.5%
六ふっ化硫黄	1,633	505	152	38	35	50	121	▲92.6%	+141.6%
総排出量	77,012	86,106	78,389	75,008	75,204	80,560	77,410	+0.5%	▲3.9%

※1 調整後排出係数により算出
 ※2 HFCs：ハイドロフルオロカーボン類 PFCs：パーフルオロカーボン類
 ※3 HFCs、PFCs 及び六ふっ化硫黄の排出量については、1995 年度の排出量

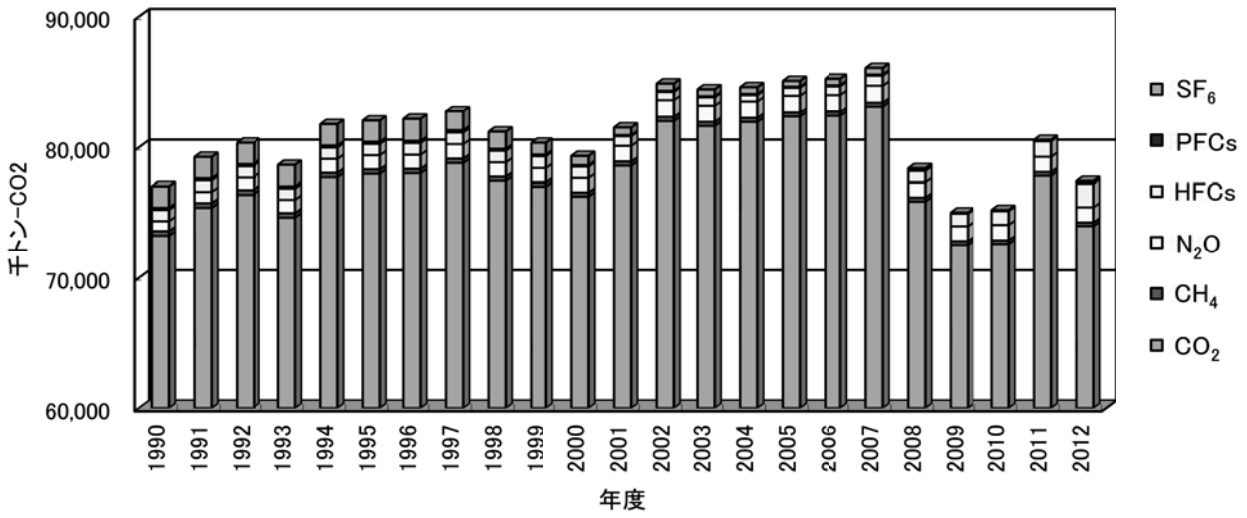


図 1 県内の温室効果ガス総排出量の推移

2 各温室効果ガスの排出状況

(1) 二酸化炭素 (CO₂)

2012年度	73,971千トン (10.0トン/人)	} ()内は一人あたりの排出量
基準年度比	1.0%増加 (9.0%減少)	
前年度比	4.9%減少 (5.0%減少)	

前年度からの減少は、主に、家庭部門・業務部門の排出量の減少による。

表2 部門別二酸化炭素排出量の経年変化

(単位:千トン-CO₂)

部門名		年度								
		1990	2007	2008	2009	2010	2011	2012	基準年度比	2011年度比
エネルギー起源	産業部門	42,898	43,837	39,090	37,033	38,548	40,616	39,737	▲7.4%	▲2.2%
	家庭部門	7,315	9,927	9,375	9,201	8,629	9,886	8,755	+19.7%	▲11.4%
	業務部門	8,387	12,200	10,566	10,171	9,374	11,336	9,551	+13.9%	▲15.7%
	運輸部門	11,041	12,080	11,825	11,448	11,270	11,111	10,993	▲0.4%	▲1.1%
	エネルギー転換	1,481	2,293	2,184	2,152	2,401	2,376	2,378	+60.6%	++0.1%
非エネルギー起源		2,099	2,800	2,810	2,524	2,371	2,484	2,558	+21.9%	+3.0%
総排出量		73,223	83,137	75,851	72,528	72,593	77,809	73,971	+1.0%	▲4.9%

〔各部門の排出量について〕

○ 産業部門 (工場等)

基準年度比で7.4%減少、前年度比で2.2%減少した。

前年度からの減少は、エネルギー使用量は増加したものの、電力量あたりのCO₂排出量が減少したこと等による。

○ 家庭部門

基準年度比で19.7%増加、前年度比で11.4%減少した。

前年度からの減少は、震災後の節電の取組によってエネルギー使用量が減少したことに加えて、電力量あたりのCO₂排出量が減少したこと等による。

○ 業務部門（オフィスビル・店舗等）

基準年度比で 13.9%増加、前年度比で 15.7%減少した。

前年度からの減少は、電力消費量の減少によってエネルギー使用量が減少したことに加えて、電力量あたりの CO₂ 排出量が減少したこと等による。

○ 運輸部門（自動車・船舶等）

基準年度比で 0.4%減少、前年度比で 1.1%減少した。

前年度からの減少は、ガソリン・ディーゼル車等の保有台数の減少等による。

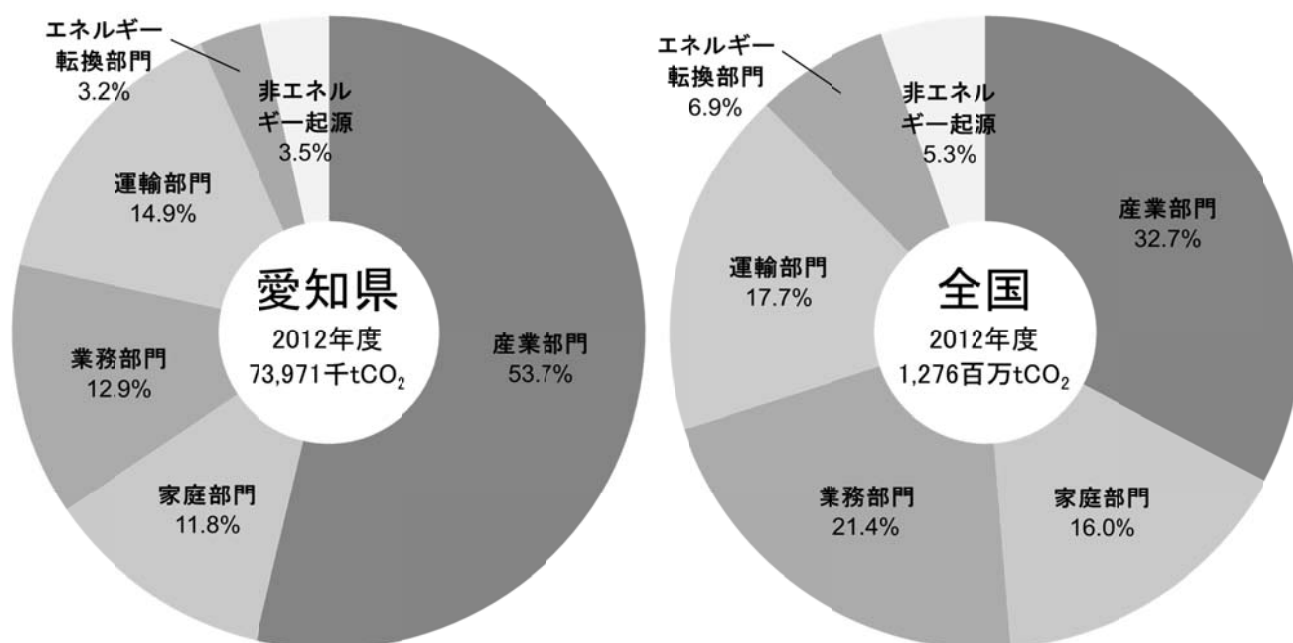


図3 部門別二酸化炭素排出量の構成割合（愛知県及び全国）

2012年度の愛知県内における二酸化炭素排出量は全国の5.8%を占めているが、基準年度（6.4%）に比べると減少している。

また、愛知県は産業部門からの排出割合が全体の53.7%を占め、全国と比べて高いが、基準年度（58.6%）に比べるとその排出割合は減少している。

(2) メタン (CH₄)

2012 年度のメタン排出量は 276 千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると 24.8%減少し、前年度と比べると 5.6%減少した。

(3) 一酸化二窒素 (N₂O)

2012 年度の一酸化二窒素排出量は 1,160 千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると 52.9%増加し、前年度と比べると 0.5%減少した。

(4) ハイドロフルオロカーボン (HFCs)、パーフルオロカーボン (PFCs) 及び六ふっ化硫黄 (SF₆)

2012 年度の HFCs 排出量は 1,806 千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると 108.8%増加し、前年度と比べると 52.5%増加した。

PFCs 排出量は 76 千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると 53.9%減少し、前年度と比べると 30.5%増加した。

SF₆ 排出量は 121 千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると 92.6%減少し、前年度と比べると 141.6%増加した。

代替フロン等 3 ガス全体では、基準年度と比べると 24.8%減少し、前年度と比べると 54.9%増加した。